

第2回 (2015年10月2日)

《イントロダクション 2/2》

前回課題ミルズの「社会学的想像力」を読んだ上で...

(1)穴埋め問題で考える—社会学とは何だろうか？

社会学とは何か「Sociology is ...」の出だしに続けて各自考え、板書した。

悪い例

×Sociology is a study of a society.

×Sociology is to make a better society.

△Sociology is a move between concern and issues.

先生が今まで見た中で良いと思ったのは...

○ Sociology is asking right questions about our lives.

(2)前回課題の回覧発表「社会学的想像力について深く考える」

具体的な事例に即して考える

▷マーチン・ルーサー・キング

- ・ キング牧師は黒人の人々の間に人種による区別があたりまえでなく、そうした枠組みを有している社会が問題であるという認識を広めた。キング牧師が1人で社会学的想像力を発揮したのではなく多くの黒人がそれをはたらかせた。

▷いじめ

- ・ 家庭状況や容姿、障害など様々な理由で生じているいじめの間に共通して存在する社会的背景、もう1歩先の要因を探っていく。兄弟が少なくなっていることやグループ・プレッシャーの強まりとその早期化、それによるストレスが関係しているのだろうか。

▷3.11に関連して

- ・ 震災後、インタビューで被災者が政府対応への批判を語っていた。被災という個人的な経験を政府などの社会的体制に結びつけて考えていると言えないか。—社会学の対象となるのは人と人との間の事柄である。天災は人と人との間の事柄であるとは言えないのではないか。
- ・ 集団全体が社会学的想像力に目覚めなければ社会の変革にはつながらない。個人

だけが社会学的想像力を発揮しても意味がない。

- 社会学的想像力による孤立もある。例えば水俣病解決に奔走した人が地元で冷ややかに見られた。
- 問題が問題として認識される境界はどこにあるのか。例えば以前は多くの人々が在日の問題を問題とも思っていなかった。社会の問題として人々に認識させなければならない。問題に気づくのは社会学者ではなく当事者なのか。

▷東京オリンピックのエンブレム問題

- ネット私刑が問題になっている。他人を叩くことで良い存在としての自分のアイデンティティを確立したいのではないか。アイデンティティの希薄化が背景にあるのかもしれない。
- 人の動きが流動化し確固とした帰属先が失われた。
- 選択しなければいけないストレス。選択を選択しなければいけない社会になっている。

※ 社会学の対象は太枠内（前回の図）

先生は「こと」の前に「(人と人の間の)」を付け加えた。

	もの	(人と人の間の) こと	
観察可能	/		←説明されること
観察不能			←説明すること